

2023年3月1日

「院外処方箋における問い合わせ簡素化プロトコル」の運用について

公立南砺中央病院薬剤科

平素より当院の院外処方箋を応需いただきありがとうございます。

当院では、2010年4月30日付 厚生労働省医政局長通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」を踏まえ、プロトコルに基づく薬物治療管理の一環として、調剤上の典型的な変更に伴う問い合わせを減らし、病院薬剤師と保険薬局薬剤師の業務の効率化、保険薬局での患者さんの待ち時間短縮、処方医の負担軽減などを目的とし、当院と事前の合意書を取り交わした保険薬局のみを対象として「院外処方における疑義照会の取り決め」を運用してきました。

このたび、名称を「院外処方における疑義照会の取り決め」から「院外処方箋における問い合わせ簡素化のプロトコル」へ変更しました。

なお、内容に変更はありませんので、すでにこの取り組みに参画されている保険薬局については、あらためて合意書を交わす必要はありません。今回より参画をご希望される保険薬局は、趣旨やプロトコルの詳細について当院担当薬剤師が説明いたしますので、当院薬剤科までご連絡ください。

連絡先

公立南砺中央病院薬剤科

薬剤科長 鶴居勝也

TEL:0763-53-2036

⑦ 成分名が同一の銘柄変更

成分名が同一の銘柄への変更は可能とします。(コメントで対応します。)

例: グラクティブ錠 50mg → ジャヌビア錠 50mg

⑧ 取り決め範囲内での残薬調整

保険薬局で実際に残薬を確認した後、Rp 単位かつ 1 日単位で残薬調整してください。残薬が処方日数以上ある場合は、処方日数を 1 日分残して残薬調整してください。残薬がある場合は、患者さんにきちんと服用するように指導をお願いします。また、服用できない理由等があれば教えてください(疑義照会時に記載してください)。

なお、Rp を分割しなければならない場合や、治療の中心的な薬剤の残薬が多数ある場合、その他の残薬調整は、至急で疑義照会してください。

例: 残薬がバイアスピリン錠 14 錠、グラクティブ錠 7 錠ある場合は、下記のように変更してください。

Rp1	バイアスピリン錠 100mg	1 錠		バイアスピリン錠 100mg	1 錠
	グラクティブ錠 50mg	1 錠	→	グラクティブ錠 50mg	1 錠
	1×朝食後	28 日分		1×朝食後	21 日分

⑨ その他の合意事項

・ビスホスホネート製剤の週 1 回あるいは月 1 回製剤が、連日投与の他の処方薬と同一日数で処方されている場合は、日数を下記のように変更してください。

(薬歴等で処方間違いが明確な場合)

例: アレンドロン酸錠 35mg 1 錠 1×起床時 28 日分
→アレンドロン酸錠 35mg 1 錠 1×起床時 1 週間に 1 回 4 日分

リカルボン錠 50mg 1 錠 1×起床時 28 日分
→リカルボン錠 50mg 1 錠 1×起床時 4 週間に 1 回 1 日分

・セイブル錠、ボグリボース錠、シュアポスト錠、グルファスト錠、ディレグラ配合錠、クラバモックスドライシロップが食直前以外の用法になっている場合は、食直前に用法を変更してください。

・漢方薬、ドンペリドン錠、ナウゼリンドライシロップ、メクロプラミド錠は、食後の用法でも可能とします。

・下記の薬剤に使用滴数の指示がない場合は、添付文書に記載されている通常使用量を追加してください。

オフロキサシン耳科用液 0.3%	成人 1 回 6~10 滴
ベストロン耳鼻科用 1%	1 回 6~10 滴
ホスミンS耳科用 3%	1 回 10 滴

2023年3月1日改定(第3版)

2020年12月1日改定(第2版)

2016年7月1日(第1版)

★処方箋表記内容と患者本人の申告内容に相違がある場合は、至急で疑義照会してください。

	添付文書記載内容	疑義照会後の処方箋記載用法
湿布薬	【用法設定が明確に決まっているもの】 * 実際に使用する枚数が異なる場合は疑義照会してください。	
	例) モーラステープ・・・1日1回 貼付	1日1枚
	例) MS温シップ・・・1日2回 貼付	1日2枚
吸入薬	【用法設定が明確に決まっているもの】	
	例) アドエア250ディスクス・・・1日2回 1回1吸入	1日2回 1回1吸入
	例) スピリーバ2.5 μ gレスピマツ・・・1日1回 1回2吸入	1日1回 1回2吸入
	例) イナビル吸入粉末剤(治療)・・・10歳未満の小児1容器(2カ所) 成人及び10歳以上の小児2容器(計4カ所)	1日1回 1回2吸入 1日1回 1回4吸入
貼付薬	【通常は一般的な用法で用いるもの(個別指示ある場合は、医師が処方箋にコメント記載している)】	
	例) 硝酸イソソルビドテープ・・・1回1枚 貼付 貼付後24時間又は48時間ごとに貼りかえ	1日1回1枚
	例) ニトロダームTTS・・・1日1回1枚 貼付 効果不十分の場合は2枚に増量	1日1回1枚
	例) ノルspanテープ・・・7日毎に貼りかえ	7日毎に1枚
	例) ホクナリンテープ・・・成人 1日1回2mg 貼付	1日1回1枚
	0.5～3才未満 1日1回0.5mg 貼付	1日1回1枚
	3～9才未満 1日1回1mg 貼付	1日1回1枚
9才以上 1日1回2mg 貼付	1日1回1枚	
塗布薬	【用法設定が明確に決まっているもの】 * おしりに使用する抗真菌薬は、用法設定が1日1回であっても異なる指示が出る場合もあります。	
	例) テルピナフィン塩酸塩クリーム・・・1日1回 塗布	1日1回
	例) スミルスチック・・・1日数回 塗擦	1日数回 痛いところ
	【適応によって用法が異なるもの】 * 適応が分からない場合は疑義照会してください。	
	例) ニゾラールローション・・・白癬、皮膚カンジダ症、癬風 1日1回 塗布	1日1回
	脂漏性皮膚炎 1日2回 塗布	1日2回
塗布薬	【ステロイド含有薬(ステロイド入軟膏・クリームを他剤と混合した場合も同様)】	
	例) リンデロンVG軟膏・・・1日1～数回 塗布	1日1～2回

<p>【通常は一般的な用法で用いるもの(個別指示ある場合は、医師が処方箋にコメント記載している)】 * 発熱時/疼痛時などの選択は、事後連絡可能です。1回量が必要であれば、通常は1回1個なので、事後連絡可能です。</p>		
坐薬	例)ジクロフェナク坐剤・・・鎮痛消炎/解熱 通常、1回25～50mg 1日1～2回	痛い時/発熱時
	例)アルピニー坐剤・・・1回10～15mg/kg 直腸内に挿入 投与間隔4～6時間以上	発熱時 * 痛い時か判断つかない場合は疑義照会してください。
	例)ダイアアップ坐剤・・・1回0.4～0.5mg/kg 1日1～2回 直腸内に挿入	痙攣時
	例)ドンペリドン坐剤・・・成人 1回60mgを1日2回直腸内に投与	吐き気時
	3才未満 1回10mgを1日2～3回直腸内に投与	吐き気時
	3才以上 1回30mgを1日2～3回直腸内に投与	吐き気時
	例)テレミンソフト坐薬・・・成人、1回10mgを1日1～2回肛門内に挿入	便秘時
	例)新レシカルボン坐剤・・・通常1～2個 肛門内挿入、重症の場合には1日2～3個を数日間続けて挿入	便秘時
含嗽薬	例)アズノールうがい液・・・1日数回 含嗽	1日数回
浣腸薬	例)グリセリン浣腸・・・1回1個 直腸内注入	便秘時
その他	例)サリベートエアゾール・・・通常1回に1～2秒間口腔内に1日4～5回噴霧	口腔内噴霧 1日4～5回
	例)ミオコールスプレー・・・成人 1回1噴霧 舌下投与	胸痛時
	例)フォルテオ皮下注キット・・・1日1回	1日1回

公立南砺中央病院 院外処方箋 疑義照会票

疑義照会票は薬剤科 (FAX0763-53-2033) に FAX 送信して下さい。
(平日 8:30~17:15、土日祝は不可)
至急時は FAX 送信後、薬剤科 (TEL:0763-53-2036) にご連絡下さい。

薬局名 _____ (担当者 _____)

保険薬局 TEL: _____ FAX: _____

処方箋の写しを左半分に添付して
FAX 送信をお願いします。

注) 処方箋左上の ID が読み取れる
ように添付してください。

疑義内容	(問合日時: 20__年__月__日 :)
<input type="checkbox"/> 至急	<input type="checkbox"/> 至急でない(当日中)

回答内容	(回答日時: 202__年__月__日 :)

公立南砺中央病院 薬剤科 ・ 医事課 (担当者 _____)